

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援ルームぷらすup 榊林ルーム		
○保護者評価実施期間	R 7年1月9日		R 7年1月23日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 5
○従業者評価実施期間	R 7年1月14 日		R 7年1月24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	R 7年2月28日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用定員に対して十分な広さを確保しており、機能訓練のニーズに対応できるよう、理学療法士や言語聴覚士等を常時配置し、より充実した療育を提供できるようにしている。	保護者からのニーズを聞き、専門職による評価を行い、個別支援計画等をもとに支援を行っている。	年齢別や障害種別など、グループ分けを行うことで、児童が安心して集団での活動に参加し、より活発に行動できるよう体制を整えていく。
2	積極的に公園や公共施設への外出を行い、地域との交流の場を多く設けている。	週1回程度、外出の機会を持ち、地域住民や同世代の子どもたちとの交流を図れるような活動を取り組んでいる。	保育園や子育て支援センター等に訪問して、さらに交流を行う機会を増やしていきたいと考えている。
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童個人のスケジュール表の作成や、声の大きさなどのさしなど、視覚化情報を増やして支援を行っているが、令和6年4月に開所したばかりであるため、さらに構造化や視覚化が必要ではないかと感じている。	現在、児童の発達状況や特性に合わせて、どの程度の視覚化、構造化が必要かを評価している段階であり、個別に環境を整えている。	引き続き、さらにアセスメントを行いながら、適切な環境設定を整え、見通しを持って安心して過ごせるよう工夫していく。
2	定期的に支援会議を行い、職員間で支援の統一ができるよう検討を行っている。しかし、職員の勤務時間や放デイとの多機能型で、職員も兼任していることから、話し合いがもてる時間が限られている。	児童発達のサービス提供時間と放デイのサービス提供時間の間が1時間ほどしかなく、ほとんどの職員が兼任していることから、その中で受け入れの準備時間や支援ミーティング等を行わないといけないので、慌ただしくなってしまう。	今後は限られた時間でも効率よく支援会議の時間を定期的に設定できるよう、職員配置やスケジュール等を考えていく。
3			